

2022年1月6日 全5頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（2022/1/6号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 鈴木 雄大郎

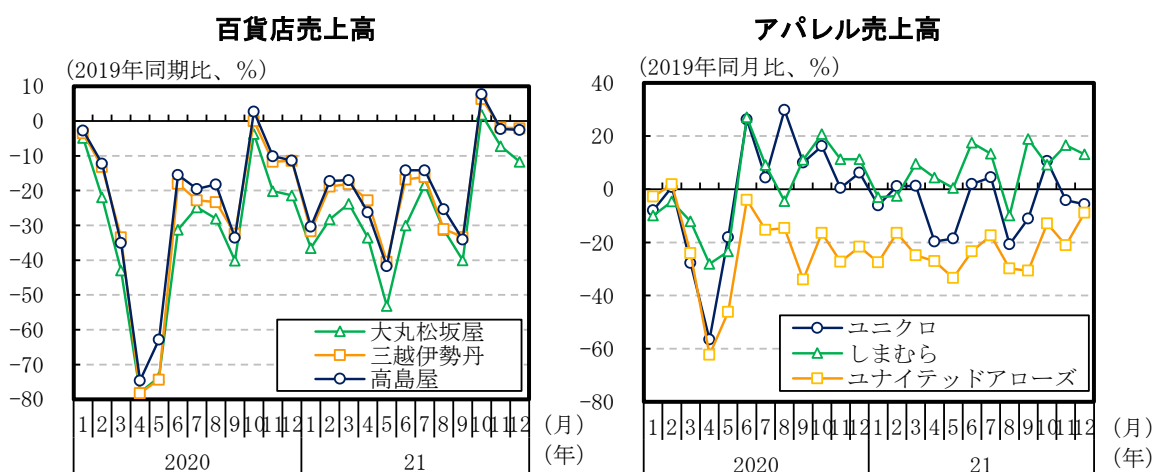
## 【要約】

- 2021年12月の消費は11月から小幅に持ち直したとみられる。財消費は伸び悩んだものの、サービス消費が全体を牽引した可能性が高い。小売店・娯楽施設の人出は8月を底に回復基調が継続し、全国平均では12月下旬にコロナショック前の水準を上回った。これと連動する傾向にある外食・旅行・娯楽関連の消費も11月から増加したとみている。
- 【小売関連】2021年12月の大手百貨店3社の既存店売上高は2019年同月比で2~11%減であった。伸び率は11月と比べ小幅に低下したものの、概ねコロナショック前と同程度の売上高を維持した。スーパーマーケットの売上高は前月比▲0.5%、大手家電量販店では冷蔵庫やテレビが振るわず同▲3.1%、ホームセンターも同▲0.3%となった。ドラッグストア（同▲0.2%）も新型コロナウイルス感染症の拡大が落ち着いたことから医薬品などが減少した。他方、コンビニエンスストアは同+0.4%となった。
- 【サービス関連】2021年12月の新幹線輸送量は2019年同期比で3~4割減と9月を底に持ち直しの傾向が継続した。11月の旅客機の輸送量も国内線は2019年同月比4~5割減程度と10月からマイナス幅が縮小した。11月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比▲3割程度と10月からマイナス幅が縮小した。感染状況が落ち着いたことで、県をまたぐ移動や旅行需要も回復傾向にある。他方、11月の外食産業の売上高伸び率は2019年同月比▲8%程度と10月から小幅にマイナス幅が拡大した。12月の飲食店情報閲覧数は足踏み状態にあり、忘年会シーズンの需要回復は鈍かった。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】 大手3社の12月の既存店売上高伸び率は新型コロナウイルス感染症拡大前である2019年同月比で2~11%減。伸び率は11月と比べ小幅に低下も、概ねコロナショック前と同程度の売上高を維持。
- ◆【アパレル】 12月のアパレル3社の既存店売上高はまちまちの結果。1社が2019年同月比で10月から伸び率が上昇、2社が小幅に低下した。しまむらの低下は曜日配列による影響が大きい。東日本を中心に気温の低下によって季節商品が好調。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。

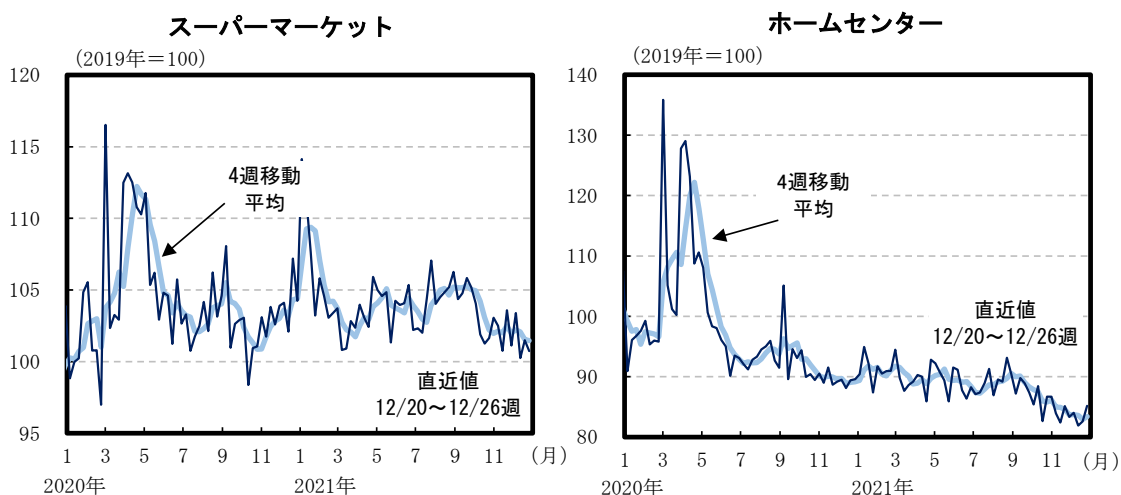
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、2020年10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】 12月の売上高は前月比▲0.5%（大和総研による季節調整値）と前月から小幅に減少。食品やたばこが押し上げるも、雑貨、飲料などが減少。
- ◆【ホームセンター】 12月の売上高は前月比▲0.3%（大和総研による季節調整値）。飲料や雑貨が押し下げ。9月以降、減少傾向にある。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

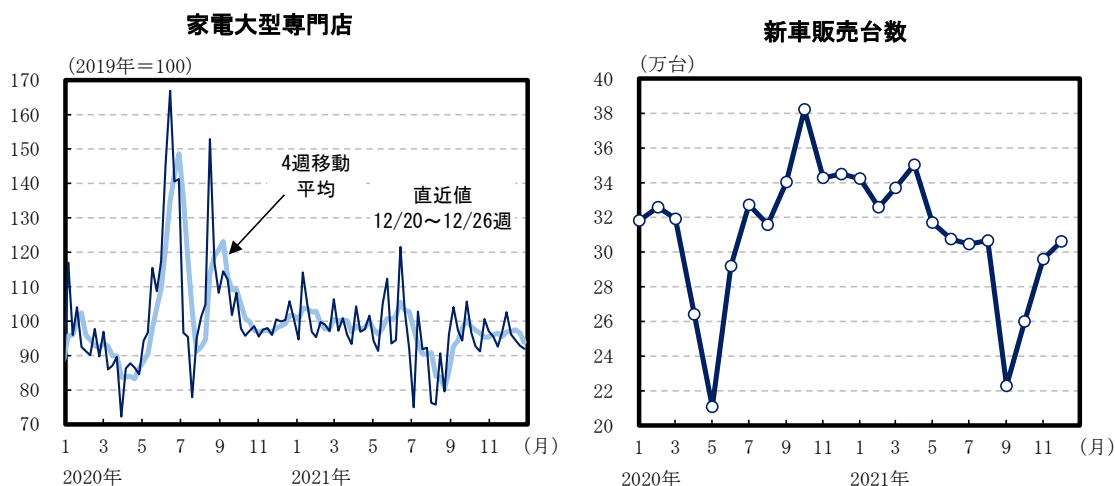


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】 12月の大手家電量販店の売上高は前月比▲3.1%（大和総研による季節調整値）。気温の低下を受け、エアコンの売上が増加するも、冷蔵庫やパソコンが押し下げ。
- ◆【自動車】 12月の新車販売台数は前月比+3.5%（大和総研による季節調整値）と2カ月連続で増加。生産調整前の8月頃の水準まで概ね回復。

図表3：家電・自動車の売上高



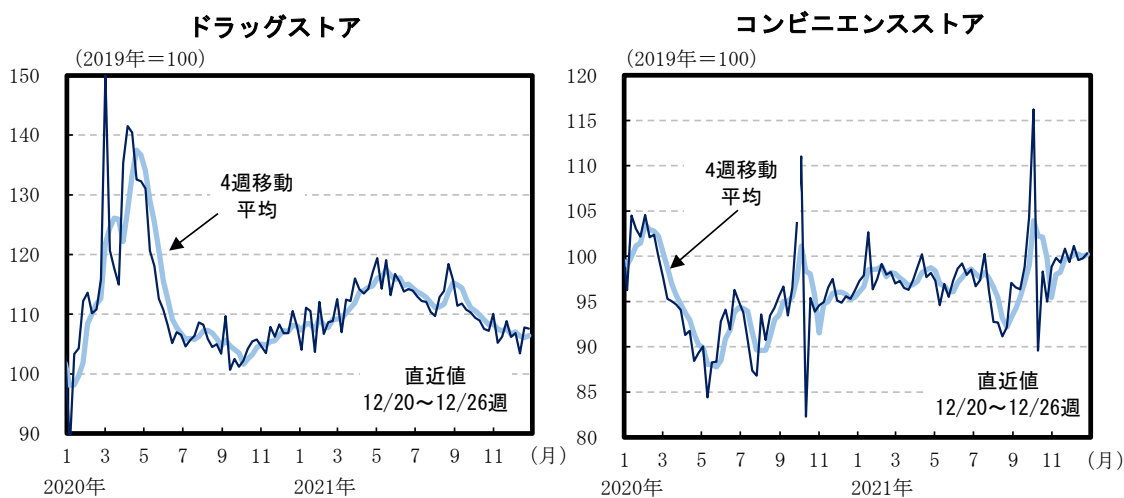
(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

- ◆【ドラッグストア】 12月の売上高は前月比▲0.2%（大和総研による季節調整値）。食品に加えて、感染状況が落ち着いたことから医薬品などが減少。
- ◆【コンビニエンスストア】 12月の売上高は前月比+0.4%（大和総研による季節調整値）。化粧品が大幅に減少するも、食品やたばこが全体を下支え。

図表4：ドラッグストア・コンビニエンスストアの売上高



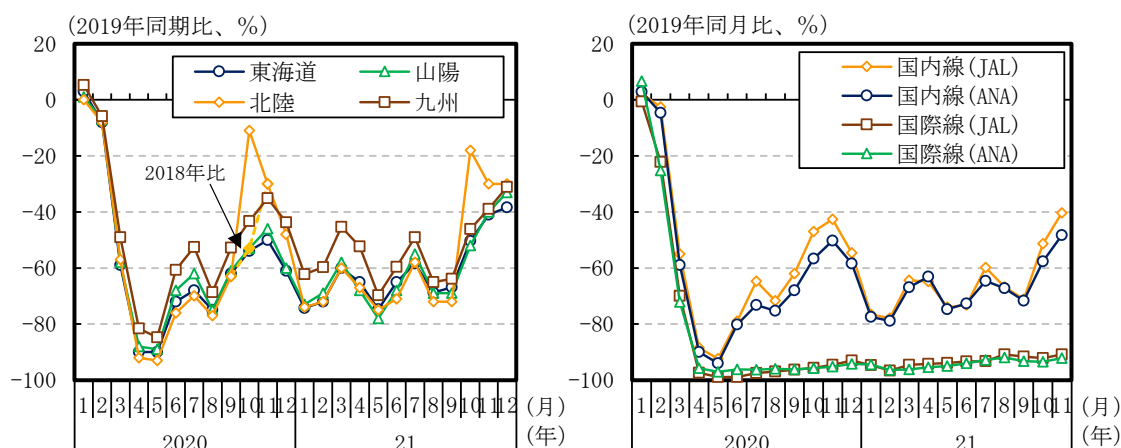
(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

## <サービス関連>

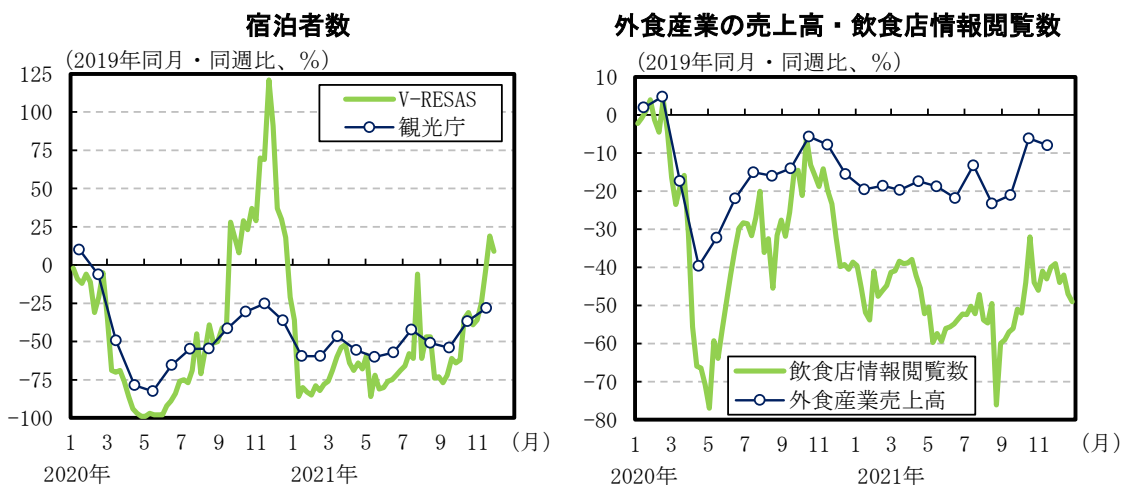
- ◆【新幹線】12月の輸送量は2019年同期比で3~4割減と9月を底に持ち直し傾向が継続。感染状況が落ち着いたことで、県をまたぐ移動も回復傾向。JR西日本は2022年1、2月に山陽新幹線の臨時列車の運行を予定しており、一日当たりの運転本数は2020年比▲5%まで回復。
- ◆【旅客機】11月の輸送量は、国内線は2019年同月比4~5割減程度と10月からマイナス幅が縮小。感染状況が落ち着いたことで、需要が回復。1月の減便率は同3~5%と概ね計画通り。一方、国際線需要は底這い。

図表5：新幹線・旅客機の利用状況



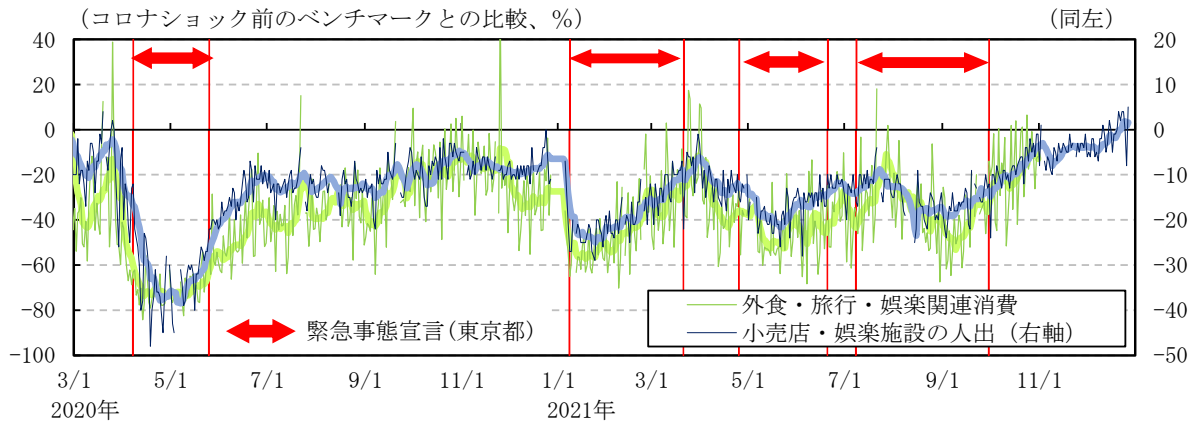
- ◆【宿泊】11月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は2019年同月比▲3割程度と10月からマイナス幅が縮小。V-RESAS（宿泊開始日ベース）では11月下旬に2019年同週を上回る。
- ◆【外食】11月の外食産業の売上高伸び率は2019年同月比▲8%程度と10月から小幅にマイナス幅が拡大。12月の飲食店情報閲覧数は足踏み。

図表6：国内宿泊者数／外食産業の売上高・飲食店情報閲覧数



<参考：人出・高速道路交通量>

図表 7-1：小売店・娯楽施設の人出（直近値 12/27）と外食・旅行・娯楽関連消費

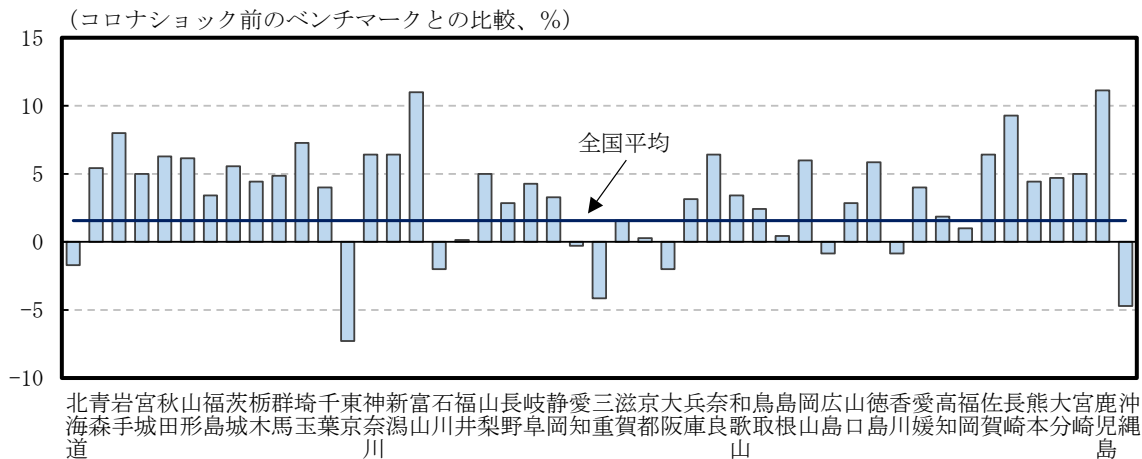


(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

月～金曜日の祝日とお盆、年末年始のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

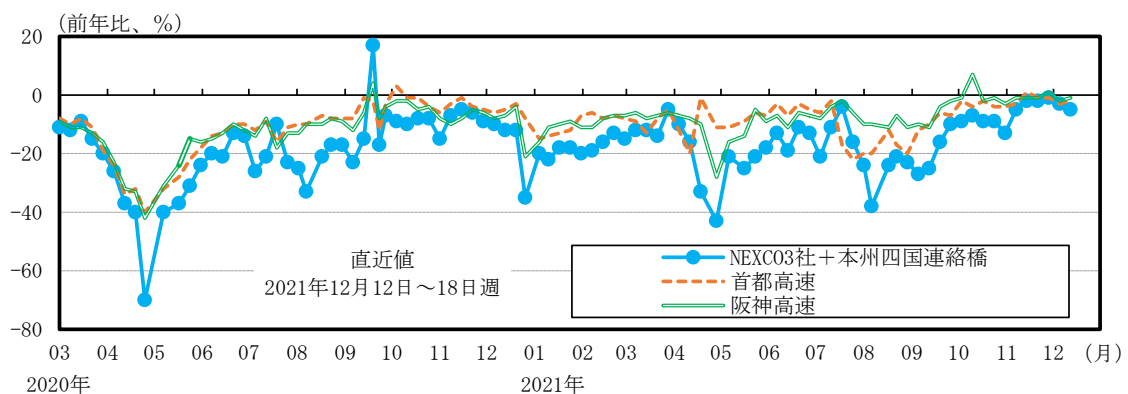
図表 7-2：小売店・娯楽施設の人出（12/21～12/27 平均、都道府県別）



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google “COVID-19 Community Mobility Reports”、CEICより大和総研作成

図表 8：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成